

2015年4月7日

世界初！ 4K映像・音声データとLANデータを 同時伝送できる光伝送器を発売

映像コミュニケーションの可能性を広げる
新たなソリューションを提供

富士フイルムグループの富士ゼロックス株式会社(本社:東京都港区、社長:山本 忠人)は、映像コミュニケーションへの新たな価値提供につながる 4K 映像データ・音声データ・LAN データを同時に、800m の長距離にわたって伝送可能な「4K HDMI・IP 光伝送器」を世界で初めて^{注1}開発、5月15日より発売いたします。

「4K」映像はフルハイビジョン(2K)の4倍の高解像度ゆえデータ量が多く、音声データも含めて伝送可能距離が短い、データを圧縮すると映像遅延が発生しリアルタイム性が損なわれるなどの課題がありますが、「4K HDMI・IP 光伝送器」は高精細な映像データを圧縮することなく光信号に変換し光ケーブルで伝送する方式で、30フレーム/秒の4K映像データを1フレームのタイムラグもなく伝送できます。

4K映像データ・音声データと同時にLANデータ(1000BASE-T)も通信可能な世界初の光伝送器であり、映像機器とネットワーク対応機器を組み合わせたシステム構築が光ケーブル1本で可能となりました。例えば、デジタルサイネージでの活用では双方向コミュニケーションのためのタッチパネル操作などに必要な制御信号を4K映像データと同時に通信できることで、LANデータ通信のための配線コストも削減できます。

当社が複合機向けに独自開発した[面発光型半導体レーザー素子 VCSEL \(ヴィクセル\)](#)^{注2}技術を応用した光ファイバーによるデータ伝送技術で、4K映像・音声データ、LANデータを同時に800mまで長距離伝送を実現しました。

用途としては、駅や空港、街頭のデジタルサイネージをはじめ、工場内の監視システム、教育現場でのタブレットを活用したアクティブラーニング、病院での手術映像の院内共有など、さまざまなコミュニケーションシーンを想定しています。

近年、フルハイビジョン(2K)の4倍の解像度を持つ「4K」映像に対応するテレビやカメラが登場し、これまでよりも臨場感のある高精細映像の視聴が可能となっており、さまざまな用途での「4K」映像の活用が期待されています。

高精細な映像でシステムが容易に構築できる映像光伝送器のニーズは高まっていくと予想され、「4K HDMI・IP 光伝送器」はそのようなニーズに応えるとともに、映像コミュニケーションの可能性を広げる新たなソリューションを提供します。

注1：4K HDMI 信号を800m 長距離伝送可能かつ同時に LAN 通信(1000BASE-T)ができる HDMI 規格認証を取得した機器として(2015年3月31日現在 当社調べ)

注2：VCSEL=Vertical Cavity Surface Emitting Laser (垂直共振器面発光レーザー)

【システム概略例】



◆4K HDMI・IP 光伝送器

【標準価格】

商品名	標準価格(税別)
4K HDMI・IP 光送信器	598,000円
4K HDMI・IP 光受信器	598,000円

- Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
- その他プレスリリースに掲載されているサービス、商品名等は各社の登録商標または商標です。